



NO.841

2011.11.6

発行所

日本共産党
網走市委員会
網走市北八四三
四三・四四五八
F四三・四四五七



TPP交渉参加を 考えるオホーツク集会!

野田政権が11月に開かれるアジア太平洋経済協力会議(APEC)において、TPP協定について議論が行われ、国民合意がないまま、交渉参加の意向を表明するのではないかと危惧されることから、オホーツクの関係機関・団体が丸となって、これらの動きを阻止するとともに、TPP交渉への参加がはらむ問題点を広く発信するため開催されました。

会場いっぱい

500人を超える参加者

初めに主催者を代表してオホーツク圏活性化期成会会長の水谷洋一網走市長から挨拶がありました。その中で、TPPをめぐるこの間の状況が述べられ、「TPP交渉参加問題を考えるオホーツク集会」を開催する意義について迫力ある訴えがありました。続いて、道オホーツク総合振興局の有好利典局長から来賓の挨拶がありました。



熱心に聞き入る参加者

基調講演では、東京農業大学生物産業学部の長澤真史教授から「TPPを考える」といふ講演がありました。そこでは、2010年10月1日の唐突の菅首相の所信表明演説によって急展開があったが、そこにはアメリカの強い圧力(プレッシャー)があったことなどが述べられました。講演の最後に、経済問題以上に日米の政治・外交・軍事(普天間基地問題)に引きずられていることを示し、TPPの影響は農林水産業分野にとどまらず24の作業部会、21分野、特に医療、労働、環境、政府調達等「地域経済と国民生活全般に及ぶ規制緩和で生活基盤の破壊・崩壊につながる。わが国が向き合う課題の優先順位は、震災復興である。現時点では、TPP交渉参加には踏み込むべきでないと述べて講演を終わりました。最後に、集会宣言を採択して集会を終了しました。

日本共産党がTPP反対の宣伝!

集会に先立って、日本共産党北見地区委員会と網走市委員会は、集会参加者にTPP交渉参加反対のビラの配布を飯田・松浦議員を先頭に6名で行いましたが、多くの参加者は「苦労様です」と声をかけていました。

いよいよ東奔西走

TPP参加問題で風雲急を駆け、情勢の中、社会保障審議会介護保険部会で利用者負担増の議論が静かに進行しています。・年収320万円以上の人の利用料

2倍化、・特養などの施設相部屋の居住費値上げ、・要支援者の利用料2倍化、ケアプラン作成の有料化などなど負担増のオンパレードです。この提案、部会委員の強い反対意見を受け、今年6月の介護保険法改定に盛り込めなかった制度改悪です。それでもまた同じ改悪を持ち出したのは、あくまで介護とりあげに固執する野田民主政権の姿勢を示しています。

これらの負担増は交付金廃止で介護労働者の賃金を維持するための財源として提案されています。「負担増を受け入れられないなら、介護労働者の賃金が下がる」こう国民を脅して、制度改悪を強行する狙いです。

政権公約では、予算組み替えで財源を捻出し4万円の賃上げをうたっていました。賃金アップ投げ捨て、賃上げ交付金廃止、賃金の現状維持とひきかえに高齢者から介護をとりあげる方向を打ち出す!。こんな公約破りは、とても認めるわけにはいきません。

松浦有戦メモ

先週、議会の生活福祉委員会での行政視察があり、26日に和歌山県海南市の子育て支援事業について先進的な取り組みを学んできました。

北海道の自治体は網走市も含め公立の保育所が基本で、幼稚園は私立がほとんどですが、本州へ行くくと公立の幼稚園がずいぶんあります。海南市も同様で小学区ごとに公立の幼稚園があり、きめ細かな幼児教育がなされています。子育て支援の一つとして、ファミリーサポートセンター事業がありました。この事業は、主婦などの地域住民が乳幼児や小学生の送迎や預かりを行うというもので、市町村の事業です。行政の役割は「連絡、調整」で、子どもを預けたい親と援助する住民(サポート役)の間を取り持つだけというものです。

ところが、この5年で15件もの骨折ややけどなどの事故が起きていることが、厚労省の発表で分かりました。現状は、自己責任で当事者間で解決するのが原則となっていますが、行政としての責任を持つようしなければと感じました。

流水

9月末で開通した新道路(西山通)は、潮見から錦町までの約2キロの間に防護柵が7ヶ所ある。そのうち3ヶ所は川が流れて、潮見側から女神橋―車止内川・西山橋―無名川・新光橋―光の沢川と、命名されている。▼潮見班の10月行事で”歩こう会”を実施した。参加を呼びかけ、6人が加わり13人。ノルディックスノーキングポールを使って、往復4キロ強を、75分と約6千歩。下り坂、帰りは上り坂。天気は良し。紅葉が始まる前なので、樹木の葉が全体に薄茶黄緑で覆われていた。▼茨城から避難しているH夫妻の元気な笑顔と明るい声のエネルギーを背に、久しぶりの汗をかいた。23歳になった障害を持つNさんは、先頭で全体の歩き加減を見ながら往復を繰り返す。経験を積み重ねた行動だ▼1週間前、午前6時、肌寒い朝の散歩のときは、網走の観光のひとつに加えてほしいと思うほどの紅葉で、真っ赤なもみじが愛らしく笹の葉の上に散らばっていた。ふっと9月に開いた「歌声喫茶店」と「折鶴」のメロディーが浮かんだ。広島・長崎、震災・原発、H夫妻と散策したこと重なった。決して忘れてはならない。▼新道路の側に来たら我が家のピンポンをどうぞ。紅茶を用意している。(て)